

特集：新型コロナ5類以降後、急増している感染症

巻頭言

選挙がありませんでしたので、前回の巻頭言でもう一つ言いたかったことがあったので、言わせてください。

マスメディアで報道されているように、令和4年度の税収が大幅に上振れしました。当初予算65.2兆円に対し実際の税収は71.1兆円で予算比では実に6兆円も多かったこととなります。基幹3税と呼ばれる、消費税・法人税・所得税すべて増加し、実数としてそれぞれ昨年対比で1.2兆円、1.3兆円、1.1兆円と増加しました。ただここで考えなければいけないことは、消費税についてです。消費税の税収が伸びたのは、景気が良くて国民が多く買い物をしたから増えたのではなく、インフレによる物価高、つまり多くの商品の値上がりで増えたことが主要因なのです。数字で説明すると、100円の商品を買うと消費税は10円です。その同じ商品が値上がりし120円に成ったとします。すると消費税は12円となり2円増えます。ただの値上げによる消費税のアップなのです。国民がいつもより贅沢をして良いものを買ったとか、20円余分に何かを買ったとかで増えたわけではないのです。名目賃金がマイナスの中であって、これは国民にとってある意味増税であり、その負担感は大変なものです。

この様にして消費税収が増えているわけですが、一番の問題はその使い道です。待った無しの問題が山積している中、一番はやはり子供の問題だと思えます。少子化対策は待った無しと云っている割には、予算化は先送りです。また日本の子供の貧困率は11.5%と大変高く、特に一人親世帯では44.5%でほぼ半分の家庭が貧困状態だと云われています。さらにその貧困状態にある家庭の多くが、学校がない夏休みの期間の食事の心配があると云っています。この今の日本で、こんなに貧富の差があってもいいものかと感じます。分厚い中間層を作ると云っている政党が自らその中間層を壊した、これはまさに大失政です。法人税や所得税はともかく、消費税の増収分1.2兆円くらいは国民に戻すなり、すぐに子供の為に使うなりすべきです。当初予算より少ないならいざ知らず、補正予算後も増えているのですから。間違えなく防衛費増額よりも優先されるべきものです。

今国会で成立させるはずであった、国会議員に配られる月100万円の調査研究広報滞在費の用途の明確化（領収書添付）と残金の国庫返納の義務化は議論すらされずに終わりました。野党ですら何も言いません。やはり与野党関係なく、問題のある政権・政党は選挙で変わってもらう仕組みにしなければいけません。国民を見た政治をしてもらうためです。

(雅)

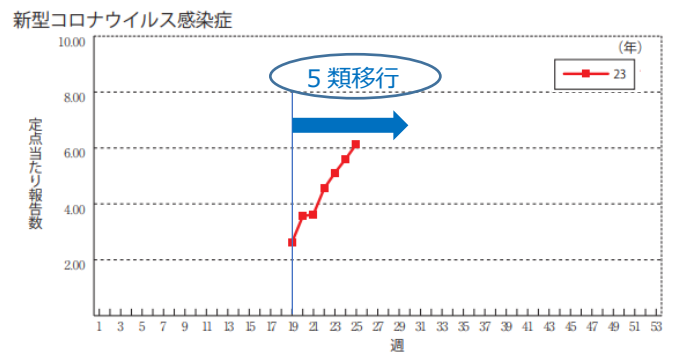
新型コロナウイルス5類移行後、急増している感染症

新型コロナウイルス感染症の位置づけは、これまで「新型インフルエンザ等感染症（いわゆる2類相当）」でしたが、2023年5月8日から「5類感染症」になりました。これまで政府が法律に基づき、要請してきた感染対策も緩和されました。現在、コロナ禍の期間は流行が見られなかったヘルパンギーナなどの感染症が急増しています。今回のM-TECインフォメーションでは、新型コロナウイルス感染症が5類に移行した後、急増している感染症についてご紹介します。

新型コロナウイルス感染症5類移行

新型コロナウイルス感染症が5類に移行するのに伴い、患者数は全医療機関の全数把握（毎日）から一部医療機関の定点把握（毎週）に変更されたため、感染傾向はわかっても医療現場の逼迫感などの実態がわかりにくい状況になっています。

また、感染対策が緩和され、これまでのマスクの着用、換気などの対策は基本的には個人や事業者の判断に委ねられることになったため、感染対策が緩くなっている方も多いのではないのでしょうか。



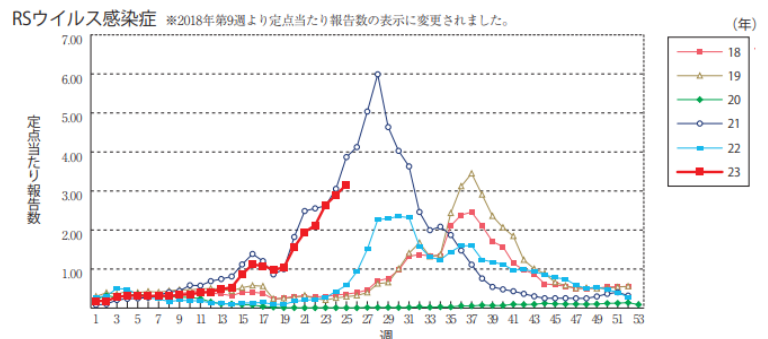
他の5類感染症と異なり、まだ注意報や警報が発令される基準が定められていませんが、5類移行後ずっと患者数が増加し続けているため、注意が必要です。

急増している感染症

日本各地で子どもがかかりやすいウイルス感染症が急速に広がっています。2020年からの3年間は新型コロナウイルスの感染対策が社会全体で徹底されていたため、コロナ以外のウイルスにもさらされる機会が減り、免疫力が低下したことが今回の急拡大の原因ではないかと考えられています。

<RSウイルス>

RSウイルス感染症とは、RSウイルスによる呼吸器の感染症です。1度感染しても一生免疫がつくわけではないため、何度も感染と発病を繰り返します。乳幼児は重症化しやすいため特に注意が必要です。今年は昨年を大幅に上回るペースで感染が拡大しています。



症状

- ・発熱、鼻汁、咳などが数日続く
- ※大半は軽症だが、咳が悪化し、肺炎等になることもある

感染経路

- ・飛沫感染
- ・接触感染

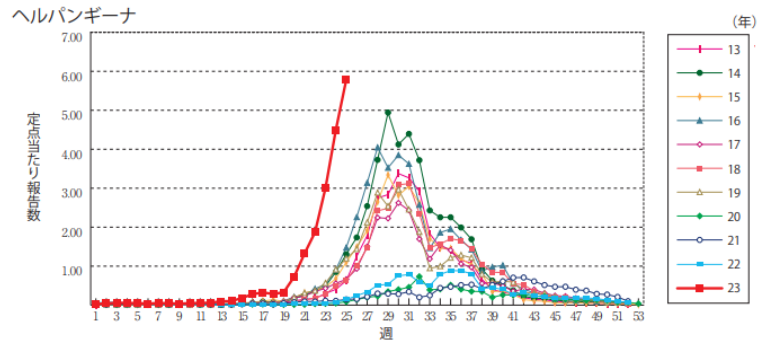


感染対策

- ・マスク着用、手洗い
- ※乳幼児はマスク着用や手洗いなどの予防対策が難しいため、周囲の人間から乳幼児に感染させないように対策を行うことが重要です。

<ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナはコクサッキーウイルスにより引き起こされる夏かぜのひとつです。乳幼児を中心に夏季に患者が増えますが、6月末時点で既に18の都道府県で患者数が「警報」レベルを上回っており、1医療機関あたりの患者数は過去10年で最多となっています。



症状

・高熱、喉の痛みが主症状だが、水疱が口内にできて食欲不振となることがある。



感染経路

・飛沫感染 ・接触感染
 ・糞口感染
 便から排出されたウイルスが手などを介し、口に入って感染

感染対策

・手洗い
 ※石鹸と流水でよく洗う
 特にトイレやおむつ交換後はウイルスを洗い流すことが重要です。

今注意すべき感染症

現在増加しているのは子どもがかかる感染症だけではありません。インフルエンザは例年12～3月頃が流行のピークですが、今年は鹿児島県などのいくつかの都道府県で季節外れの流行が続いており、6月まで流行が続くのは初めてのことです。それ以外にも、夏季に増加する手足口病などの感染症も既に増加傾向となっており、急激な感染拡大を起こさせないために警戒が必要です。

	症状	特徴
咽頭結膜熱	発熱、頭痛、目の痛み、目やに、涙が止まらない、喉の痛みなど	プールで感染が広まるが多いため「プール熱」とも呼ばれています。
流行性角結膜炎	角膜と結膜の炎症、まぶたの腫れ、涙が止まらないなど	アデノウイルスは感染力がとて強く、容易に周囲へと感染が拡大します。
手足口病	口腔粘膜や四肢末端（手のひら・足の裏など）に水疱、発熱など	回復後も2～4週間は便からウイルスが排出されるため、注意が必要です。
溶連菌感染症	喉の痛み、倦怠感、発熱、イチゴ舌など	風邪の症状のような咳や鼻水があまり出ないのが特徴です。
インフルエンザ	高熱、全身のだるさ、筋肉痛 喉の痛み、咳など	症状が出て48時間以内であれば有効な薬があるので早めに病院へ。

※いずれも感染経路は飛沫感染と接触感染であるため、新型コロナウイルスと同様の対策が効果的であり、新型コロナウイルスの感染対策を行うことが他の感染症の拡大防止にも繋がります。

新型コロナウイルスのPCR検査を承っております。

害虫獣紹介

アオバアリガタハネカクシ

アオバアリガタハネカクシは、6、7月に多く見られ、触れると皮膚炎を起こすことから、ヤケドムシとも呼ばれ、全く有難くない虫です。今回はそんなアオバアリガタハネカクシについて紹介します。

生態

アオバアリガタハネカクシは、全国に分布しており、畑や池沼の周辺、川岸などに生息しています。体長は6～7mmで、頭部が黒色で、胸部は橙色、鞘羽が藍色、腹部は橙色で末端部が黒色と目立つ体色をしています。成虫、幼虫共に雑食性ですが、成虫は肉食を好む傾向にあり、昆虫やダニ類を捕食します。4～10月まで活動しており、6、7月に多く見られます。昼間は、地表や落ち葉の下で生活していますが、夜間になると、光に誘引されて人家に飛来します。雌は1度に18～100個の卵を産み、卵から成虫になるまでの成育期間は22～50日とされています。



Paederus fuscipes

(日本ペストコントロール協会)

被害

アオバアリガタハネカクシは、卵、幼虫、蛹、成虫のいずれも体液に有毒物質であるペデリンを含有しており、触ることで水疱を起こします。特にキャンプや自転車の照明に誘引された成虫が、顔や腕に止まることで被害を生じます。また、成虫の体長は6～7mmですが、光に誘引された成虫は、網戸を頭から突っ込むため、網戸の目を通過して侵入することがあり、工場などでは異物混入に繋がる可能性があります。

対策

皮膚に止まってしまった場合は、必ず潰さず、ハンカチなどを使って払いのけて下さい。触れてしまった箇所は直ちに石鹸を使いながら洗い流し、ステロイド軟膏を塗るようにして下さい。症状の改善が見られない時は皮膚科に行くようにしましょう。また、窓や扉の開放時間を減らし、窓に紫外線カット資材フィルムを貼ることで侵入を予防できます。光に誘引されることから、捕虫器を用いて捕獲することも可能です。餌となる虫の発生予防も大切で、建物周辺の廃材や植木鉢、レンガなど隠れ家になりそうな物を片付けるようにしましょう。

食中毒情報

件数としてはカンピロバクター、患者数としてはウエルシュ菌を原因とした食中毒が最も多く発生していました。また、ノロウイルス食中毒も2件発生報告がありました。

今月は、カンピロバクター、ウエルシュ菌、黄色ブドウ球菌など、細菌性食中毒の発生が増加していました。高温多湿の環境になっており、食品中や包丁・まな板などの調理器具で細菌が増えやすい状況になっています。この時期は細菌が爆発的に増殖するため、食品を短い時間でも室温に放置することが命取りになります。食品は調理後、早めの提供・喫食を心がけて下さい。また、一時保管する場合は、必ず冷蔵庫などで低温保管してください。現在、各地で次々と食中毒注意報・警報が発令されています。夏季の間は、継続的に細菌性食中毒の予防対策の強化をお願いします。

全国食中毒発生状況 (6/15～7/14 新聞発表分等)

原因物質	件数	患者数
カンピロバクター	18	83
寄生虫	6	12
ウエルシュ	5	160
黄色ブドウ球菌	2	14
不明・その他	7	115

『ひとつ、ふたつ・・・快適環境を生み出します』

MARUMA MITEC
株式会社 **マルマ** エムテック衛生検査所
メールアドレス：info@maruma-ec.co.jp

本 社 / 〒430-0807 浜松市中区佐藤 2 丁目 5-11
TEL：(053)464-6400 FAX：(053)465-4120
東京支店 / 〒194-0005 東京都町田市南町田 2-15-14
TEL：(042)850-6454 FAX：(042)850-6456
静岡支店 / 〒422-8046 静岡市駿河区中島 960-1
TEL：(054)202-0210 FAX：(054)202-0220

名古屋支店 / 〒496-0027 愛知県津島市津島北新開 234-2
TEL：(0567)69-4080 FAX：(0567)69-4081
大阪支店 / 〒555-0032 大阪府大阪市西淀川区大和田 3-5-6
TEL：(06)6475-6550 FAX：(06)6475-6567